

◆2001年度CIEC定例総会報告

日時：2001年8月7日（火） 16：15～17：00

会場：金沢大学角間キャンパス 文法経講義棟A101

出席：本人出席54、書面131、委任状29

議 事

1. 総会成立の確認

若林理事より開会宣言。引き続き、総会成立要件（会則第22条）を確認し、CIEC2001年度定例総会の成立が告げられた。

2. 議長・副議長および資格審査委員の選出

若林理事より、理事会推薦の次の方々が紹介された。議長には理事で松蔭女子大学の石川さん、副議長には東北大の才田さん、資格審査委員には北海道教育大の瀬川さんと摂南大の吉田さんの推薦が告げられ、ほかに立候補者がいないため、拍手で確認された。

3. 奈良会長より開会の挨拶（略）

4. 議事運営に関する議長からの提案と確認 効率の良い議事運営を進めるために、次の提案があり、拍手で確認した。

- ・ 提案は、役員選挙以外は連続して提案し、提案後一括して討議する。
- ・ 採択は、議案ごとに個別、かつ連続して採択する。
- ・ 議案5をのぞき、出席者の過半数の賛成で議決。議案5は出席者の3分の2以上の賛成で議決する。

5. 議案1 矢部正之副会長より「2000年度事業報告と2001年度事業計画（案）」の提案がされた。

6. 議案2、議案3、議案4 松田憲副会長より、議案2「2000年度決算報告案」、議案3「2001年度収支差額処分案」、議案4 「2001年度予算案」の提案が一括してされた。

7. 監査報告 辻正雄監事より、議案2の一部、監査報告がされた。

8. 議案5、議案6 生田茂副会長より、議案5「CIEC会則一部改正（案）承認の件」、議案6「CIEC役員選挙規約一部改正（案）および今回補充選挙実施確認の件」の提案が一括してされた。

9. 意見用紙の紹介と回答（内容別紙） 矢部正之副会長より、書面議決書と一緒に届いた6通の意見用紙が紹介され、回答についての報告がされた。

10. 討論及び採択 全議案を一括して討論することとしたが、発言はなかった。瀬川資格審査委員より、出席状況に関する報告がされ、拍手で確認をした。

引き続き、石川議長から採択手順について説明があり、採択した。結果は次の通り。議案1～6まで圧倒的多数で採択された。（なお、出席賛成者数および委任状に書面議決書の数加算された）

11. 議案7 佐藤選挙管理委員長より、議案7「役員補充選挙」の結果について報告があり、拍手で確認した。新役員として選出された熊澤理事より、挨拶がされた。

12. 閉会 才田副議長より、議事終了が告げられ、議長団の解任とCIEC定例総会の閉会が宣言された。以上

議案1：2000年度事業報告と2001年度の事業計画

0. はじめに

各委員会・部会等の2000年報告と2001年計画については、資料をご覧ください。

本項では、その中で特記すべきもの、および理事会直属の事項についてまとめて述べます。

1. 2000年度事業報告

前年の定例総会において採択された2000年度事業計画で特に重点的な課題としてあげた（1）会員活動の充実、（2）中期目標検討とその具体化に向けた取組み、について

（1）部会・プロジェクト活動の充実は、ゆっくりではありますが着実に歩を進めております。新規に外国語教育研究部会が立ち上がり、小中高部会では、教科「情報」の副読本が発行（2001年度）されるなど、自然科学部会も含め活発に活動しています。特記した国際学術交流検討の端緒を開くことについては、目立った交流までには至らず、様々な可能性を引き続き探っていく必要があります。また、地域活動の萌芽が北海道地域から芽生え、今後の進展が期待されています。委員会等への会員参加の拡充、会員の幅広い要請への対応については、まだ十分に果たされておらず、2001年度引き続き重点的に取り組む事になります。

（2）中期課題検討に関する最終報告書がまとめられました。しかし、それに基づく中期計画の策定・具体化については、まだ始まったばかりで、十分な成果を得ておりません。学術団体としてCIECは、佐伯理事の第18期日本学術会議会員就任を象徴とし、2001年度PCカンファレンス市民向け講演会への科学研究費の補助など着実な歩みを進めています。基本的な活動については委員会活動を中心に進められています。組織基盤の充実、事務局については、その体制変更に伴い、会務の執行・事務局機能の強化・支援のために副会長の増員と担当設定、副会長を中心とする事務局との打ち合わせをオンライン、オフライン双方で適宜行うことにより着実に進められています。また、会員拡大の取組みと組織全般の在り方の検討については、会員拡大は個人・団体とも着実な進展（資料「会員の状況」参照）はあったものの、組織基盤の強化に向けて、理事会・運営委員会、上記打ち合わせを通じて更に進めていかなければなりません。

各専門委員会を中心に進行している本会の多岐にわたる日常的な活動のうち、特筆されるものを以下に示します。

(1) ソフトウェア委員会では、全国大学生協連と協同で、「電子教材専門委員会（仮称）」を組織し活動を開始してソフトウェア情報の交換・交流の端緒を開きました。また、CIECware初のパッケージソフトウェアとして"CIEC TypingClub"の頒布を開始しました。より充実した委員会活動のために、再構築を含めた委員会の活性化施策が求められています。

(2) 国際活動委員会では、海外情報の入手と発信について、一定進行中ではありますが、その更新・充実についてさらに努力する必要があります。海外研究団体との交流については、2000年度目立った交流を持っていませんでしたが、中期目標の中心課題の一つであり、さらなる取り組みが求められています。

(3) 会誌編集委員会では、会誌「コンピュータ&エデュケーション」の9、10号を発行しました。会誌は、特集の責任編集体制、査読システムなどが着実に定着し、会員相互の交流の場として重要な役割を担っています。また、市販ルートでも着実な展開があり、CIEC活動の普及が期待されています。10号からは表紙デザインを一新するなど、さらなる飛躍を期しています。また、会誌でのPCカンファレンス報告のあり方、著作権の扱い等の議論を開始し、一部は具体的な活動に移されています。

(4) カンファレンス委員会では、2000年PCカンファレンスを全国大学生協連と協力して、北海道大学において北海道全道的な取り組みとして開催しました。520名の参加と130本のレポートがあり、これまで以上に充実したカンファレンスとなりました。日常的な研究会活動についても、シリーズ化された研究会、委員会・部会と協力して行う研究会など、幅広く多様な研究会が計13回開催され、多くの参加を得ています。CIECの活動において、会誌と共に大きな位置を占めている研究会活動を担当するカンファレンス委員会では、活動が活発になるほど委員の負担が過重になり、その強化が緊急の課題になっています。

(5) ネットワーク利用委員会では、ネットワークサービスの停滞ない提供について、メインサーバのHDDが壊れる事故があったもの、迅速・的確な処置でトラブルは最小限に抑えられました。今後の安定したサービス提供を考慮して、新たなサーバ機の導入、安定性の強化を図りました。また、さらなるネットワークサービスの充実について、ホームページのフレーム化は進みましたが、それ以外の進展は見られませんでした。CIECの諸活動への支援体制強化については、CIEC TypingClubの新たな展開によりサーバ提供の責任が更に大きくなり、サーバ機の更新などで体制を整えました。

2. 2001年度事業計画

2001年度の中心的課題は日常活動の更なる充実と、中期課題の解決への具体的行動です。

後者については、中期目標検討ワーキンググループが2001年2月にまとめた「CIEC中期課題検討に関する最終報告書」（参考資料参照）を受け、課題の解決、目標の達成の具体的行動に入る段階になりました。報告書の中では、(1) 戦略的に重視して取り組むべき課題、(2) 学術組織としての基本的活動、(3) 組織基盤の強化に関する課題について、示唆に富む具体的な提案がなされています。

これをもとに、会員間での議論を深め、CIECの現時点での力量やそれを取り巻く環境を考慮して、課題解決の方法、適切な目標設定を行った中期計画を策定します。これらの実現、日常活動の支援、会の運営の継続性確保のため副会長の増員・事務局機能の強化を行います。

前者の日常活動の更なる充実については、これまで同様、各専門委員会を中心に取り組んでいきます。特に重

点的課題となるものを以下に示しますが、各専門委員会の活動はこれら以外にも多岐にわたり、個人・団体会員の要請も多様化してきており、それらに伴う諸活動の活発化に應えるため、全専門委員会で組織の再検討・強化を行います。

(1) ソフトウェア委員会では、広く、ソフトウェア/データ/ドキュメントの収集を行う取り組みを目指します。全国大学生協連との協同でさらにこの活動を進めていきます。CIEC会誌におけるソフトウェアレビューについて、独自の活動として継続する一方、この形式にとらわれることなく、ソフトウェアの紹介・評価を行ってまいります。

(2) 国際活動委員会では、これまでの活動の充実・強化にさらに努力します。また、中期目標の中心課題の一つである国際交流活動の強化は、その方策の具体化と、様々な可能性を引き続き探っていきます。

(3) 会誌編集委員会では、これまでの編集体制・紙面構成を維持するとともに、投稿本数をあらゆる機会を利用して増やす努力をします。今までの経験をふまえた新しい企画の立案を行います。学術的側面を保持しながら多様な誌面構成を実現することを目指します。また、より充実した効率的かつ実質的な査読体制の確立の検討をします。加えて、編集委員会の構成の見直し（任期制、定員など）、会誌に関して広く意見を聴取する方策（合評会の定例化、MLなど）、著作権の帰属に関する議論と提案、を検討・実施します。

(4) カンファレンス委員会では、金沢大学での2001年PCカンファレンスを全体テーマ「21世紀、ともに学び合う社会へー人間とITの融和をめざしてー」の下、全国大学生協連との協同で成功を目指します。さらに、PCカンファレンスに付随する市民向け企画を初めて開催します。この企画は、金沢大学も共催団体になっており、文部科学省の科学研究費の補助も受けているもので、今後このような企画にも積極的に取り組んでまいります。研究会活動は、専門委員会や部会活動の活発化に伴い、ますます頻繁に開かれ、CIECの活動の中でも重要な役割を担っています。今後も会員の要求とCIECの基本方針に沿って、カンファレンス委員会が提案する全体的な企画と、各部会・専門委員会が企画する研究会とのバランスを勘案しつつより内容の充実した研究会開催を目指していきます。

(5) ネットワーク利用委員会では、ネットワークサービスの提供技術も一般的なものになりつつあり、実務委員会である本委員会の作業の多くが事務局で行える状況が整いつつあります。その中で、ホームページを始めとするネットワークサービスの充実、情報教育をリードする組織として望まれる機能の提供を目指し、本委員会のあり方の見直しと組織の整理再検討を行います。緊急を要する作業として、メーリングリストなどへのスパムメールに対する対応を進めます。

また、汎用jpドメインとして"ciec.jp"を取得しましたが、この活用方法について、会員から広く意見を聴取し検討してまいります。

以上

(議案2～7は省略させていただきます)

【資料】各委員会2000年度活動報告と2001年度方針

【ネットワーク利用委員会】

2000年度は次のような方針のもとに活動を行いました。

2000年度においては、従前通り、ネットワーク利用サービスの維持と増強を中心に活動し、滞りなくサービスを提供することを基本にします。さらに理事会・各委員会と協力し、CIECの広報活動をより広範に親しみやすく効果的にするべく個人会員・団体会員双方に向けたネットワークサービスの充実に努めます。加えて、CIEC wareをはじめとする諸活動へのネットワークによる支援体制についても強化を図ります。

この方針について、昨年度は、

1. ネットワークサービスを滞りなく提供すること CIECのメインサーバのハードディスクが壊れるという事故が発生しましたが、管理者の迅速かつ的確な対応・処置によりトラブルは最小限に抑えられました。サーバ機は更新時期と判断し、新たなサーバ機を購入していただきました。事故の経験を生かし、ハードディスクはRAIDとしましたので信頼性が格段に向上しました。また、事務局体制が変わりましたのでメーリングリストの利用などについてサポートしました。

2. ネットワークサービスを充実すること ホームページのフレーム化の継続作業が事務局によって進められましたが、事務局の体制が変わったこと、作業への委員会としての関わりが弱くなっていること、などによりさほど進んだとは言えない状況です。「汎用jpドメイン」としては、「ciec.jp」を取得しました。これの活用方法については、これからの議論となります。

3. CIECwara活動などへの支援体制を強化すること CIEC TypingClubの新たな展開によりサーバ提供の責任はさらに大きくなりましたが、サーバ機の更新などにより体勢を整えています。

というような状況でした。

全般的に言って、ネットワークのサービス提供技術も一般的なものとなりつつあり、実際の作業のかなりの部分が事務局に移行してきています。そういった意味では、本委員会の直接的関わりはサーバ管理などに限られつつあります。しかし、CIECの顔でもあるホームページの品格を考えると、情報教育をリードする組織として望まれる機能を考えると、CIECのネットワーク利用を委員会組織で支える必要性が弱まったわけではありません。事務局体制が変わったことも踏まえ、2001年度は、以下を重点項目とします。

1. CIECのネットワークサービスの提供における本委員会の関わり方について見直すとともに、委員会組織についても整理・再検討致します。

2. 緊急を要する作業として、メーリングリストなどへのスパムメールに対して具体的な対応を進めます。

【ソフトウェア委員会】

2000年度は以下の方針のもとに活動を行いました。 1. ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動の推進
2. CIECware活動の推進 3. CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当

以上の方針に対し昨年度は以下のような状況でした。

1. ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動の推進 十分な準備を進めることができなかったため、活動の展開を行うことができませんでした。一方、大学生協連と協議を行い、この活動を両組織が協力して進めていく

ための組織として「電子教材専門委員会」（仮称）を組織し、活動を開始しました。

2. CIECware活動の推進 CIECware初のパッケージソフトウェアとしてタッチタイプ練習用ソフトウェアを頒布を開始しました。

3. CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当 ソフトウェアレビューの投稿はほとんどなく、教育研究に有用なソフトウェアを発掘し広く紹介する活動に発展させることはできませんでした。

2000年の振り返りをふまえ、2001年度は以下を重点として活動を進めます。

1. ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動の推進 電子メール、ネットニュース、ウェブページなど様々なネットワーク上で利用可能な機能を利用して、ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動を進めます。また、大学生協連との協議の結果を踏まえて、この活動を大学生協連と協同で進めます。

2. CIECware活動の推進 CIECwareとなるソフトウェア/データ/ドキュメントを収集する活動を行い、大学生協連とも協同しつつ、CIECware活動を推進します。

3. CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当 ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動の成果の中から総合的な内容のソフトウェアレビューが生まれてくることを期待しつつ、引き続きCIEC会誌ソフトウェアレビュー欄の担当を独自の活動として取り組みます。同時に、従来のソフトウェアレビューの形式にとらわれることなく、さらに多くのソフトウェアの紹介・評価を行います。

【国際活動委員会】

1. 海外の研究団体からの情報の入手と発信、Web上での情報の蓄積CIECのWebページの英文化の作業は、一定進行中であるが、データ更新などができていない部分がある。読みやすく役立つ国内外の研究情報を掲載などをめざしたい。

2. 海外の研究団体などとの交流 今年度は目立った交流を持てなかったが、CIEC中期目標検討プロジェクトで戦略的に重視して取り組むべき課題の一つとして取り上げられている、国内外他団体との交流の具体化として、さらには以前にも行ったアジアの研究者をPCCなどに招聘できるような条件を、引き続き探していきたい。

【会誌編集委員会】

1. 活動をふりかえって（2000年度活動報告をかねて）

（1）総括 『コンピュータ&エデュケーション』誌は、これまでに10号（創刊準備号を含めれば11号）を刊行することができました。いまや本誌は、対外的にはCIECの顔として、また対内的には会員の相互交流の場として、重要な役割を担うようになりました。発行部数は3500部で、このうち1500部が会員用、2000部が市販用として活用されています。市販用は創刊号以来、発行元の柏書房ルートを通じて各号とも2～300部の普及で、柏書房の書籍のなかでは安定した、着実な売れ行きとのことでした。

（2）編集体制 第3号より特集責任体制にしました。これは各編集委員の専門性を発揮しながら独自の観点から編集するという趣旨でした。各号につき、特集にふさわしい内容となっていると評価できます。また、第5

号より編集委員が2名増えました。比較的手薄だった文科系および英語論文と英文サマリーへの対応を睨んだ語学系の委員にお願いしました。

査読については雛形を作成し、査読者による個人差がないように配慮しました。投稿者にたいする懇切丁寧な査読もあり、査読を通じた研究交流も成果としてあげられます。

この間ciecメーリング・リストで議論になった点では、第1にPCCの成果をどのように反映させるか、第2に査読および会誌の編集方針についてでした。第1の点に関しては、編集委員会で企画（原案）を考え、それをカンファレンス委員会に提案して調整することにしました。さらにそれを受けて編集委員会で実際に原稿をまとめることにしました。この点では運営委員会とはメーリング・リストなどで意見を聞き、編集委員会との連繋を強めることが確認されています。第2点については、方法論の違いを前提としながらある程度のまとまりがあれば論文として掲載していくことを共通了解としています。論文としての完成度が低くても掲載されることで研究実践のインセンティブが働くことを目指しています。

(3) 巻頭インタビュー 第2号から「巻頭インタビュー」を常設しました。読み物としての性格と問題提起をしてもらうという趣旨はその後一貫し、本誌のひとつの看板になりつつあります。各号の登場者は以下のとおりです（敬称略）。第2号・坂村健、第3号・中西秀彦、第4号・古瀬幸広、第5号・奥山賢一、第6号・村井純、第7号・猪瀬直樹、第8号・津野梅太郎、第9号・菅谷明子、第10号・歌田明弘。とくに第9号では特集と連動させることを試みました。ひとつの方向性と言えるかもしれません。

(4) 特集 創刊準備号以来、各号において特集を組んできました。創刊準備号では「米国と日本の高等教育におけるコンピュータ利用教育の実際」、第1号では「コンピュータ利用教育の明日」、第2号では「学習者中心のデザインの実際」、第3号では「日本の大学における外国語教育」、第4号では「自然科学教育へのコンピュータの利用」、第5号では「小・中・高校における新しい学びの紹介」、第6号では「社会科学教育へのコンピュータの利用」、第7号では「新教育課程の光と影」、第8号では「電子情報の未来」、第9号では「メディア・リテラシー」、第10号では「インターネットが切り拓く教育市場—教育の《市場化》を考える—」でした。今秋発行予定の第11号では、「21世紀における外国語教育とメディア」です。企画趣旨は以下です。

「情報化が発達しインターネットが生活の一部あるいは大部分を占めている現在において、対人間という形はとっていなくても、コミュニケーションのツールとしての英語の重要性は高まっている。そのような状況下での、外国語教育とりわけ英語教育の位置付けはどのようなものとなるであろうか？ 学校における英語教育そのものの必要性の是非についても問われるであろう。さらに、第2外国語が英語に取って変わるといった意見もあろう。メディアは外国語教育の中でどのように位置づけられるのか？ 現場教師、企業等の試み・意見・展望をもとに21世紀の外国語教育を考える。」

上記のように、第3号から特集責任体制のもと、編集委員の一人が持ち回りで担当することにしました。各編集委員の創意溢れるテーマのもと、論点を掘り下げた追求が可能になりました。巻頭インタビューと併せて本誌の特色を示す企画として好評であり、今後とも多様なテーマを追求していくことが期待されます。また、特集にふさわしい内容にするためには、早い時期からの準備が必要である、ことが確認されています。

(5) 論文・活用事例・ソフト紹介など 巻頭インタビュー、特集を除く常設欄は、論文・活用事例・ソフト紹介です。論文は、創刊準備号7本、第1号3本（ほかに5本の事例研究）、第2号8本、第3号6本、第4号7本、第5号5本、第6号7本、第7号6本、第8号5本、第9号2本、第10号2本です。活用事例は、創刊準備号3

本、第1号4本、第2号5本、第3号1本、第4号1本、第5号1本、第6号1本、第7号1本、第8号2本、第9号6本、第10号2本です。ソフト紹介は、創刊準備号5本、第1号4本、第2号2本、第3号2本、第4号1本、第5号1本、第6号1本、第7号2本、第8号1本、第9号ゼロ口、第10号2本です。発行当初はほとんどすべて依頼稿でした。徐々に投稿が増え、第6号～第8号では論文・活用事例はすべて投稿で構成されました。論文・活用事例の割り振りは投稿後の査読によって決めている場合もあります。気軽に投稿してもらえらる誌面構成を考えると、活用事例の充実は不可欠です。第5号より「新刊紹介」コーナーを新設しました。取り上げた書籍の出版社から書籍の寄贈があったほか、会員外からの投稿もありました。さらに充実させれば、本誌の普及にも力になるはずです。ソフト紹介は、ソフト委員会と連繫をとりながら、使用する側からの検証という点を重視して掲載してきました。ソフト委員会の活動の発表の場としても貢献してきました。第9号より「私の意見」コーナーを新設し、会員内外の意見を自由に述べてもらい、意見交流をはかる場として活用することが期待されています。タイムリーな報告もその都度掲載し、誌面充実に寄与しています。

(6) 広告・宣伝 柏書房の出版案内のなかで、その都度紹介されてきました。編集委員会としては第5号刊行以降数冊の雑誌に独自広告を出しました。

(7) 既刊号の保存とその活用 会員用の残部および柏書房分の在庫につき、保存場所を確保したほか、本誌普及のために見本誌として研究会・学会時の販売用などに有効活用してきました。第9号配付時に既刊号を見本として同封し、会員・読者の普及に一助にいただきました。

(8) 事務局体制 テープ起こし・校正・執筆者と査読者との連絡など多用な日常業務を遂行していただきました。編集委員会との緊密な連携で第10号まで刊行できたことは、何よりも事務局の力があつたからです。

(9) その他 第6号から抜刷として制作費実費の一割を手数料としてお願いすることにしました。柏書房との契約については発行部数、販売価格、発行時期、ページ数、配布形式など、契約事項に定められた内容に関して相互に違反や契約不履行はありませんでした。ただ、第8号の刊行について奥付が契約より遅れたのは柏の事情によります。

第10号より、表紙デザインを一新しました。また、表紙および日本語の目次から所属を省き、すっきりしたものにしました。

2. 2001年活動方針

(1) 編集体制と誌面構成 これまでの編集体制と誌面構成を基本的に踏襲していきます。年間約20本の投稿が安定発行の目安になりますので、PCカンファレンスを中心に、編集委員会からの積極的働きかけがこれまでに以上に必要です。研究会として企画された合評会での意見(CIECNewsletter, No.19参照)は、CIEC中期目標とも関連した大事な柱となりました。今後編集委員会での議論のベースにおきながら、具体的な取り組みとして実現していきます。カンファレンス時のイブニングトークやウェブとの連繫など、いままでの経験をふまえた新しい企画も立案していきます。本誌の定着とともに、執筆者の多様化を追求する必要があります。CIECの構成メンバーに応じた執筆者および誌面構成のバランスも考慮する必要があります。また、生協職員の執筆者はまだ少数にとどまっており、学術的側面を保持しながら、多用な誌面構成を実現しなければなりません。

(2) 査読 すでに作成した査読のフォームを活用して、効率的かつ実質的な査読をさらに進めていきます。特集担当をのぞいては編集委員会と主要な仕事がこの査読に集約されますので、これまで以上に委員会としての

機能強化と委員の役割分担をはっきりさせていきます。 投稿者の査読への異論、さらには査読者変更の要求などを考慮した査読体制の確立も検討課題に入りました。

(3) 編集委員会の独自企画 合評会の定例化や第10号発行を契機とした出版を考えています。

(4) その他 編集委員の任期制の導入、副編集長の新設、編集委員の定員などは検討課題として残っています。これはCIEC全体の役員選出方法ともかわり、早急に方向を決める必要があると判断しています。青焼き校正段階でも数多くの朱が入り、光陽印刷に無理をお願いしています。青焼き校正では確認程度で済むように、その前の段階で校正体制を組むことにしました。第10号からは前倒しで実現しました。編集にかかわるMLの設立については異論がありませんでした。当面、査読等編集実務のML(編集員+副会長+事務局)と会誌全般にかかわるMLの両方で運営していきます。会誌論文等をホームページで公開したり、出版物に再構成したりといったことをCIECがすすめるためには、CIECが当該著作物に対する著作権を有する必要があります。これまでは、特に定めがなかったため、著作権は執筆者にあります。したがって、現在、著作権についての規定を新たに設ける検討がすすめられています。

【カンファレンス委員会】

カンファレンス委員会は、(1)PCカンファレンスの企画運営、(2)日常的な研究会及び講演会などを行うこと、を主な任務として活動しています。

1. 2000年度活動報告

(1) 2000PCカンファレンス 1993年から続いているPCカンファレンスは、初めて北海道での開催が実現した意味のあるカンファレンスとなりました。全体テーマ「試されるIT教育」を掲げて、8月2日から3日間、北海道大学を会場に、520名の参加者と130本のレポート(分科会115本、ポスターセッション15本)報告が行われ、「IT元年」に向け学校、企業、行政などの関係者を交えて、活発な議論が交わされました。

1) 全体テーマと期待された目標 「試されるIT教育」は、バブル経済崩壊後、低調な北海道を元気づけようと、北海道が全国規模でキャッチコピーを募集し、そこで採用された「試される大地」を借用して「試されるIT教育」としたものです。このテーマにかける期待は、(1)「北海道の新世紀への望みは、依然日本のフロンティアであるこの大地に、情報・通信を核とした新しい産業を振興させ、IT技術によるベンチャー企業を育成し、経済の自立とそれに裏打ちされた豊かな生活の実現はかること。」(2)「それを可能にするには、スキルのある技術者、企業家、一般市民そしてそれらを育てる教育者の連携が必要であり、このPCカンファレンスではIT教育が近未来にもたらすものを検証し、つぎのIT教育のフロンティアへ向けての挑戦を試みること」、(3)「現実の北海道にあっては、遠隔で過疎化の進む市町村でのIT教育をどのように進めるのかが大きな課題であり、そのような現場に根ざしてIT教育に関係する先生方や研究者からの問題点の掘り起こしとその対応を考える」(青木実行委員長挨拶からの抜粋)ことにありました。

2) シンポジウム シンポジウムは、「コンピュータ利用による、学校と社会の新たな結びつき」と題して、パネリストに岩見沢市長の能勢邦之氏から主に通信ネットワークを地域に根ざす際の地方行政としての取り組みと課題を、また、公立はこだて未来大学長の伊東敬祐氏からは新設の公立大学としての新しい試みと地域社会との結びつきなどについて報告いただき、これを受けて、コメンテータとして北海道教育大学の山形積治氏、東京都立大学の生田茂氏、滋賀県立日野高等学校の小西浩之氏の三人から、それぞれ教員養成と大学の課題、大

学と地域の結びつき、高校現場で抱える生徒と地域社会の問題などについてコメントをいただき、熱心なディスカッションを行いました。詳細はCIECホームページやCIEC会誌「コンピュータ&エデュケーション」(Vol.9)に掲載されていますのでご参照ください。

(2) 日常的な研究会活動 今年度は以下のような研究会が開催されました。この中で「コンピュータ利用教育の10年を振り返って」シリーズは昨年から引き続き開催されているものです。また、「教育の情報化」シリーズは小中高部会と共同で開催しているものです。

1) 第21回研究会

参加者：28名／テーマ：双方向学習 (Interactive Learning) ～学びのCommunityへの「参画」からみたコンピュータ利用教育とは～ /日時：2000年4月22日 (土) 13:30～16:30 /場所：大学生協会館2階会議室 204

2) 第22回研究会 (プレPC C研究会)

参加者：35名 /テーマ：コンピュータ利用による、学校と社会の新たな結びつき /日時：2000年6月17日 (土) 13:00～16:00 /場所：北大電子情報エレクトロニクス新ビル2階 A24講義室

3) 第23回研究会 参加者：41名 テーマ：「ミレニアム・プロジェクト『教育の情報化』を考える」
日時：2000年10月28日 (土) 13:30～17:00 場所：大学生協杉並会館2階 204・205会議室

4) 第24回研究会 (プレ PC C研究会)

参加者：25名 /日時：2000年11月25日 (土曜日) 12時30分～15時30分 /場所：金沢大学 角間キャンパス 教育実践センター

5) 第25回研究会

参加者：45名 /テーマ：「ミレニアム・プロジェクト『教育の情報化』」を考える ～Part 2～ /日時：2000年12月16日 (土) 14:00～17:30 /場所：大学生協杉並会館5階ダイニングルーム

6) 第26回研究会

参加者：20名 /テーマ：大学改革は「情報教育」をどのように変えたか シリーズ4～コンピュータ利用教育の10年を振り返って～ 理系学部におけるコンピュータ利用教育および情報教育の現状と課題 /日時：2001年1月27日 (土) 13:30～17:00 /会場：大学生協会館2階会議室

7) 第27回研究会

参加者：51名 テーマ：「ミレニアムプロジェクトに向けて ～教育の情報化を探る～」 /日時：2001年3月10日 (土) 13:00～17:00 /会場：大阪 大学生協大阪事業連合 新大阪事務所、金沢 金沢大学 角間キャンパス 教育実践センター、東京 大学生協杉並会館2階、札幌 北海道大学 電子情報エレクトロニクス新ビル

(3) 「小中高等学校での新しい学びの創造」部会による研究会

1999年から活動を始めている「小中高等学校での新しい学びの創造」部会では、以下のような研究会を開催してきました。

1) 小中高部会第4回研究会

参加者：60名／日時：2000年6月3日（土） 14:00～18：40／場所：早稲田大学高等学院会議室／テーマ：「小中高等学校での新しい学びの創造」を支える学校像 ～教科「情報」試行の中での教科書と教育現場の実際～

2) 小中高部会第5回研究会

参加者：14名／日時：2000年10月14日（土） 14:00～17：00／会場：コープイン京都2階会議室 テーマ：「総合的な学習の時間における学校交流とコンピュータ利用」

3) 小中高部会第6回研究会

参加者：61名／日時：2000年10月21日（土） 14:30～17：30／会場：大学生協杉並会館2階会議室／テーマ：松岡正剛氏、いま「情報」を問い直すー教育の場面での「知の編集術」ー

4) 小中高部会第7回研究会

参加者：30名／日時：2000年12月9日（土） 14：00～17：30／場所：大学生協杉並会館2階202・203会議室 「総合的な学習」第1回研究会

(4) 外国語教育研究部会

2000年から活動を始めている「外国語教育研究」部会では、以下のような研究会を開催してきました。

1) 外国語教育研究部会 第1回研究会

参加者：41名／日時：2000年12月9日(土) 13:30～17:30／場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス アクロスウイング 情報語学演習室1

2) 外国語教育研究部会第2回研究会（Linuxワークショップ）

参加者：24名／日時：2001年3月17日(土) 13:30～17:00／場所：東京都渋谷区神宮前6-24-4 大学生協東京事業連合 B2会議室

2. 2001年度活動方針

(1) 2001PCカンファレンスの開催 大学生協連と共催して開催するPCカンファレンスは、今年通算して9回目(CIEC創設から7回目)を迎え、CIECとしてはまさに「学会の研究大会」の役割を担う大きなイベントとして位置づけられています。今年のPCカンファレンスは、8月6日～8日までの3日間、金沢大学角間キャンパスを会場にして開催されます。

○全体テーマ：「21世紀、ともに学び合う社会へ 一人間とITとの融和をめざして」 新世紀、どのような社会になるのでしょうか。生涯学習と謳われて久しいのですが「ともに学び合う社会」の認識が益々深まることでしょう。そして何よりも「人間とITとの融和」が必要不可欠で、これが実現して初めて豊かな社会が実現するといえます。皆様のご協力により、人間とITの融和をめざして、幅広いテーマの研究発表と活発な討論がおこなわれますことを期待いたします。(三好義昭 2001PCカンファレンス実行委員長「開催のご案内」より抜粋)

○シンポジウム：テーマ「人に優しいIT社会の実現と教育の役割」 私たちの社会は、いま、人類史上稀にみる急激な変革期を迎えています。コンピュータ、通信技術の発展は、人々の生産、医療、社会福祉、教育など、あらゆる社会基盤に対して極めて大きな影響力を発揮しています。ITと呼称される情報技術が、単にテクノロジーの側面だけでなく、経済、産業の活性化と人々の暮らしの向上を目的として位置づけられ、世界的な規模でその活動の場を広げてきつつあります。しかし、その一方で、環境、エネルギー、教育、さらには国や地域間の格差、富と貧困の格差さど、多様で複雑な問題が顕在化してきているのも事実です。教育の問題に目を移してみても、急速に変化する情報・通信技術に現場の教育関係者は戸惑いを隠せません。効果的なマルチメディアのコンテンツを例にとっても、その入手や作成は容易ではありません。 2001PCカンファレンスは、このような急速に動き出しているIT社会の中で、人々はこれとどう向き合うのか、とりわけ教育の役割やあり方を正面に据えて、初等中等教育から高等教育まで一貫したIT教育や社会人教育、さらにはIT社会におけるNPO組織の役割など、いま私たちに求められている課題を可能な限り鮮明にしていきたいと考えています。 パネリストに、エコマネー提唱者、関東通産局総務企画部長の加藤敏春氏、文部科学省メディア教育開発センター教授の佐賀啓男氏、コメンテータには金沢工業大学教授の島田洋一氏、富山大学教授の筒井洋一氏、立命館大学教授の野沢和典氏、金沢市立扇台小学校教諭の清水和久氏にお願いしています。

(2) 「プレPCカンファレンス 研究会」の開催 テーマ：人に優しいIT社会の実現と教育の役割 開催日時：6月23日(土) 13:30~17時(予定) 開催場所：金沢大学角間キャンパス

(3) 日常的な研究会企画とその方向性 当面の研究会を以下のように開催します。

○第28回研究会

2001年5月26日(土) 午後1時30分から午後5時30分(予定) /テーマ「学校の情報化における著作権問題」(仮題) /講師：文化庁著作権課長 岡本薫氏

○今後の方向性

研究会活動は、専門委員会や部会活動の活発化に伴って、ますます頻繁に開かれ、CIEC活動のなかでも重要な「基幹」に関わる役割を担っています。研究会は、様々な専門部会の萌芽を促進し、CIEC自体の基本方針にも影響を与えます。また、会員を拡大する役割においても、重視されなくてはなりません。今年度、30回を越える研究会活動を振り返り、「CIEC中期課題」の方向性に沿って、1) この間の研究会活動で得られた成果をまとめる作業を行います。2) 東京以外での研究会の開催を積極的に提起します。3) ネットワークを活用した遠隔研究会をより容易なものとなるよう検討し、恒常的な企画として位置づける努力をします。4) 可能な範囲で、研究会企画をネットワークで配信するなど、一層幅広い層の人たちへの働きかけを重視し、CIECへの理解を広げる方策も検討します。 以上のような課題を検討しつつ、今後とも会員の要求とCIECの基本方向に沿って、カンファレンス委員会が提案する全体的な企画と、各部会・専門委員会が企画する研究会とのバランスを勘案して、より内容の充実した研究会の開催をめざすよう努めます。同時に、参加者の裾野を一層広げ、他団体等

と連携した新たな企画などにも積極的な対応を図ることが必要です。